

留学白書 2021



2022.6.20

留学支援共同利用センター

『留学白書 2021』について

東京外国語大学が2014（平成26）年度に文部科学省スーパーグローバル大学創成支援（タイプB:グローバル化牽引型）に選定され、8年が経ちました。申請で掲げた留学に関する目標は、学生が卒業までに一人2回留学する、「留学200%」です。その目標を達成するために、本学の学生がどのような留学を行っているのかを確実に把握することが必要となり、本白書の作成が始まりました。

その目的の下、本学の留学状況をまとめた留学白書も8冊目となりました。2020年度には、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、ほとんど新たに海外渡航できなくなる事態となりましたが、2021年度は、コロナ禍が続く中ですが、一部の留学プログラムを再開することができました。しかしながら、短期のプログラムは軒並み中止となり、コロナ前の状況に戻るにはまだしばらく時間がかかりそうです。大学としては、引き続き状況を注視しながら、留学の全面的な再開の時期を探っていきます。

なお、本『留学白書 2021』は7章から成っています。I章からVI章が分析編、VII章が資料編です。

これにより本学の留学状況の全体像を知っていただければ幸いです。

2022年6月

留学支援共同利用センター

目次

分析編

I. 留学の種類	6
1. 長期留学	6
①交換留学（学部、大学院）	6
②ダブルディグリープログラム（DDP）	6
③休学留学（学部）	6
④自由留学（学部）	7
⑤長期インターンシップ等（学部、大学院）	7
⑥長期研究留学（大学院）	7
⑦海外フィールドワーク等（大学院）	7
2. 短期留学	8
① ショートビジット（学部、大学院（修士））	8
② スタディツアー（学部）	8
③ 短期インターンシップ（学部、大学院）	9
④ 日本語教育インターンシップ（学部、大学院）	9
⑤ Joint Education Program（JEP）（大学院）	9
3. オンライン留学	9
II. 2021年度 留学状況について（概要・学部生）	10
III. データから見える課題について	14
IV. 2021年度 留学状況	15
1. 学部学生（長期・短期総合）	15
①留学者総数	15
②学年別・期間別留学者数	15
③2014年度から2021年度の期間別留学者数の推移	16
④学部別・期間別留学者数	16
2. 学部学生（長期留学）	18
①留学種別・留学開始年度別長期留学者数	18
②留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）	18
③留学種別長期留学者数の推移	19

④留学種別長期留学者数と長期留学者総数に対する割合	20
⑤学生交流協定校数と交換留学者数の推移	20
⑥留学先地域別・留学種別長期留学者数	21
⑦留学先地域別長期留学者数の推移	22
⑧留学先国別・留学種別長期留学者数	23
⑨長期留学者の給付型奨学金受給状況.....	25
⑩2019年度長期留学者の単位認定状況.....	27
3. 学部（短期留学）	28
①留学年度別・留学種別短期留学者数の推移	28
4. 大学院生（短期・長期）	29
①大学院生の長期留学について.....	29
②大学院生の短期留学について.....	29
③大学院生の奨学金受給状況	30
5. オンライン留学の状況	31
V. 2021年度学部卒業時点での留学状況について.....	33
①卒業生の在学中の長期留学回数.....	34
VI.SGU指標（2022年6月 フォローアップ調査）	36
資料編	39

分析編

I. 留学の種類

本学では、長期留学で7つ、そして短期留学で5つ、留学の種類を分類しています。白書では、この11のタイプの留学者数の推移に注目していきます。

1. 長期留学

本学では、4学期制における1学期以上の期間の留学を、長期留学として定義しています。夏学期のみ、冬学期のみの留学は短期留学に分類されます。

※新型コロナウイルスの影響により、長期留学の予定だったものが、早期帰国により期間としては短期留学の期間となった場合でも、本書では長期留学としてカウントしています。

①交換留学（学部、大学院）

本学協定校との学生交換の枠組みで、本学から派遣される形の留学です。

■交換留学・さらに詳しく■

2022年1月1日現在で、本学が学術交流協定を締結している71カ国・地域の231の教育機関のうち、172の大学・高等教育機関と学生交換に関する協定が結ばれています。協定に基づき、海外の協定校の学生が来日して本学で学ぶ一方、本学から先方大学に学生が派遣されます。

交換留学では、学生は本学を休学することなく派遣されることから、交換留学期間を含めて4年で卒業することが可能です。ただし就職活動との関係などから、実際には卒業を延ばす学生が多いのが実情です。

交換留学では、留学先の学費が免除される代わりに、本学に学費を納入します。生活にかかる経費は派遣先により異なりますが、大学としては給付型奨学金の確保に努めています。2019年度出発の交換留学では265人中192人（うち4人大学院生）の派遣者が奨学金を受給しており、うち166人（うち4人大学院生）にJASSO（日本学生支援機構）海外留学支援制度奨学金が支給されました。JASSO奨学金の受給には、家計基準や本学での学業成績（GPA）が考慮されるほか、派遣先での単位取得が条件となっています。

②ダブルディグリープログラム（DDP）

本学と海外協定校との間で、協定を締結し、在学中に本学および協定校の双方で単位を取得し、修了時に二つの学位が取得できるプログラムです。

■ダブルディグリープログラム・さらに詳しく■

2021年度時点で、国際日本学部でセントラルランカシャー大学とのDDP、大学院前期博士課程で、中央ヨーロッパ大学等との共同のHIPSプログラムがあります。

③休学留学（学部）

休学をして留学するもののうち、単位認定の申請を行って留学をするものです。

■休学留学・さらに詳しく■

単位認定が可能な留学先教育機関は、事前に教授会で承認される必要があります。休学留学により取得した単位は、本学の卒業必要単位の一部とすることができます。ただし、出発前に単位認定を申請したものの、帰国後、実際に単位認定の手続きをする学生の数が必ずしも多くないため、単位認定者数を増やすのが課題です。

④自由留学（学部）

休学して留学するもののうち、単位認定の申請なしに留学をするものです。

■自由留学・さらに詳しく■

語学留学・学部留学を問わず、単位認定の申請をせずに、海外の教育機関等に留学するものを自由留学と呼んでいます。

⑤長期インターンシップ等（学部、大学院）

休学して海外に在住するもののうち、その目的がインターンシップのものです。2015年より始まった国際交流基金による「日本語パートナーズ派遣事業(※)」による派遣、在外公館勤務等も含まれます。

※日本語パートナーズ派遣事業

独立行政法人国際交流基金が実施する事業で、幅広い世代の人材を、ASEAN諸国等の教育機関（主に中学・高校）で日本語を教える教師やその生徒の日本語学習の「パートナー」として派遣するものです。日本語パートナーズは、授業のアシスタントや会話の相手役といった活動をするとともに、教室内外での日本語・日本文化紹介活動等を行い、ASEAN諸国の日本語教育を支援します。同時に、日本語パートナーズ自身が現地の言語や文化についての学びを深め、ASEAN諸国等と日本の懸け橋になることを目標としています。

⑥長期研究留学（大学院）

大学院生が休学をして、海外の教育機関に留学するものです。単位認定はありません。コチュテル※、日本学生支援機構の海外留学支援制度（大学院学位取得型）での留学等を含みます。

※コチュテル（外国の大学院等との博士論文共同指導）（本学における定義）

博士課程に所属する学生の研究指導を行うにあたり、所属大学と外国の連携高等教育機関との間で協定を締結した上で、双方の指導教員が共同指導を行い、博士論文が合格となった場合には、所属大学と連携機関の双方から、それぞれ学位を授与される制度です。

⑦海外フィールドワーク等（大学院）

大学院生が休学をし、教育機関等に属さずに海外で研究活動を実施するものです。

2. 短期留学

本学では、夏学期・冬学期に行う留学や、学期中に大学が行うプログラムによる留学を、短期留学と定義しています。休学して行う留学は短期留学には含まれません。

① ショートビジット（学部、大学院（修士））

夏学期・冬学期に、海外の本学協定校に留学するものです。世界教養プログラム「短期海外留学」を履修します。留学前教育、留学後教育の取り組み状況を考慮して単位認定が行われ、1回の留学に対し2単位が付与されます。

ショートビジットプログラムのうち、全員型プログラム（原則、対象者全員参加のプログラム）の形を取っているのは、以下の8つの言語です。

全員型プログラム（ショートビジット）専攻言語・留学先および留学時期

専攻言語	留学先	留学時期
ベトナム語	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学	1年次夏学期
ビルマ語	ヤンゴン大学	1年次夏学期
トルコ語	アンカラ大学	1年次夏学期
アラビア語	カイロ大学、アイン・シャムス大学、アレキサンドリア大学、アリー・バーバー・インターナショナル・センター	1年次冬学期
ラオス語	ラオス国立大学	1年次冬学期
タイ語	シーナカリンウィロート大学	1年次冬学期
ベンガル語	ジャドブプル大学	1年次冬学期
カンボジア語	王立プノンペン大学	2年次冬学期

※新型コロナウイルス感染拡大の影響により 2021 年度のショートビジット（現地渡航）は全て中止

② スタディツアー（学部）

本学協定校との共同教育や海外での学修体験の獲得を目的に、本学や他の公的機関が実施するプログラムに参加するものです。世界教養プログラム「スタディツアー」を履修します。ショートビジット同様、1回の留学に対し2単位が付与されます。

■例年実施しているスタディツアー■

- 「アジア太平洋地域に築く平和で包摂的な社会」——「コンフリクト耐性」を培う能動学習
- ムンバイでスラムとソーシャルワークを学ぶ——「コンフリクト耐性」を培う能動学習
- 国連研修プログラム
- ウズベキスタン・スタディツアー
- マレーシア・スタディツアー

※新型コロナウイルス感染拡大の影響により 2021 年度のスタディツアーは、「国連研修プログラム」はオンラインで実施し、それ以外は全て中止

③ 短期インターンシップ（学部、大学院）

本学のグローバルキャリアセンターが実施する海外での短期インターンシップに参加するものです。参加にあたっては、「グローバルビジネス講義」を履修しているものが優先されます。

■例年実施している短期インターンシップ■

- UMW Toyota Motor Sdn Bhd（マレーシア）
- 矢崎投資有限公司（中国）
- Toyota Motors Philippines Corporation（フィリピン）
- PT. Toyota Motor Manufacturing Indonesia（インドネシア）
- AYANA HOTEL & SPA and RIMBA JIMBARAN by AYANA（インドネシア）
- FIDR（国際開発救援財団）（カンボジア）
- マツダメキシコ（メキシコ）

※新型コロナウイルスの影響により 2021 年度の短期インターンシップは全て中止

④ 日本語教育インターンシップ（学部、大学院）

日本語教育を学ぶ本学学生が、海外で行うインターンシップです。言語文化学部グローバルコミュニケーションコースや大学院の日本語教育分野で実施されています。国際交流基金と連携して、海外で日本語教育を実施するものなどがあります。

⑤ Joint Education Program（JEP）（大学院）

大学院生を、それぞれの研究計画に即して、夏学期・冬学期に世界各地の本学協定校の関係分野の研究室等に派遣し、研究力の向上に資する機会を提供するものです。これにより、①現地の協定校の教員から、研究上のアドバイスを得る、②修士・博士論文のための資料収集や現地調査を行う、③研究対象地域の大学での修学経験を積み現地理解を深める、などの目標を達成させることとなります。派遣の成果は本学における主任指導教員の担当科目または「専門特殊研究」の一部として成績評価に反映させるものとしています。

3. オンライン留学

新型コロナウイルスのパンデミックにより海外渡航が制限される中、テレビ会議システムなどの IT 技術を利用したオンライン授業が世界各地の大学で実施されています。こうしたオンライン・リモート環境下での留学を「オンライン留学」と呼ぶことにしています。

夏学期・冬学期のショートビジットプログラムは、現地渡航は一律中止となりましたが、代替措置として、協定校がオンラインにて同等のコースを提供する場合は、ショートビジットプログラムに準じて単位認定を行うことになりました。

また、交換留学においても、協定校がオンライン授業を提供する場合、日本国内からの受講を認め、また、所定の手続きを行うことで単位認定も従来の交換留学に準じて行われることになっています。

本白書では、オンライン留学の実績についても掲載しています。

Ⅱ. 2021 年度 留学状況について（概要・学部生）

2021 年度の本学の学部生の留学状況については、長期、短期で以下の実績となりました。長期留学者については、2021 年度に留学を経験した人数（年度内出発者、年度内帰国者、年度内留学継続者）の合計です。

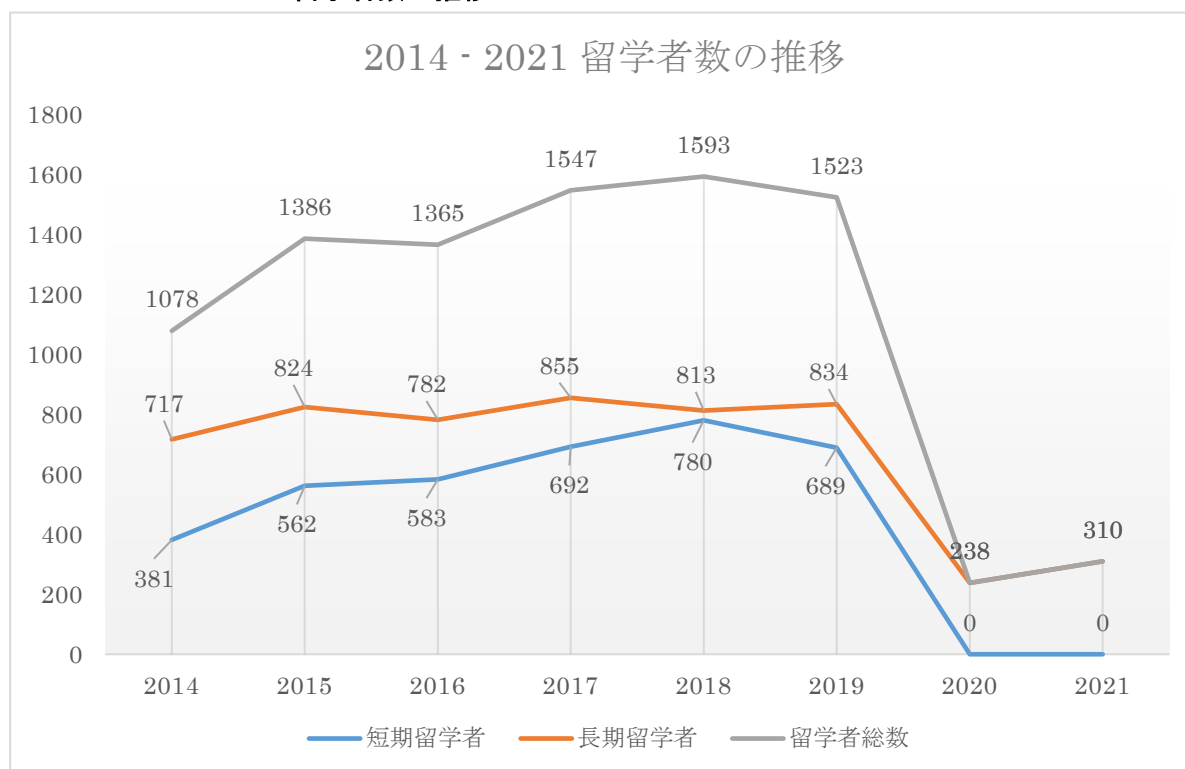
なお、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、留学期間を短縮した場合でも、当初の留学期間が長期に分類されるものについては、実際の留学期間に関係なく長期留学として扱っています。（実渡航を含むもののみカウント。オンラインのみは集計対象外。）

また、早期帰国した場合の留学終了日については、学籍異動データ上の留学終了日としています。

Table 1. 2021 年度短期、長期留学者数

留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
留学者数	0	310	310	3801

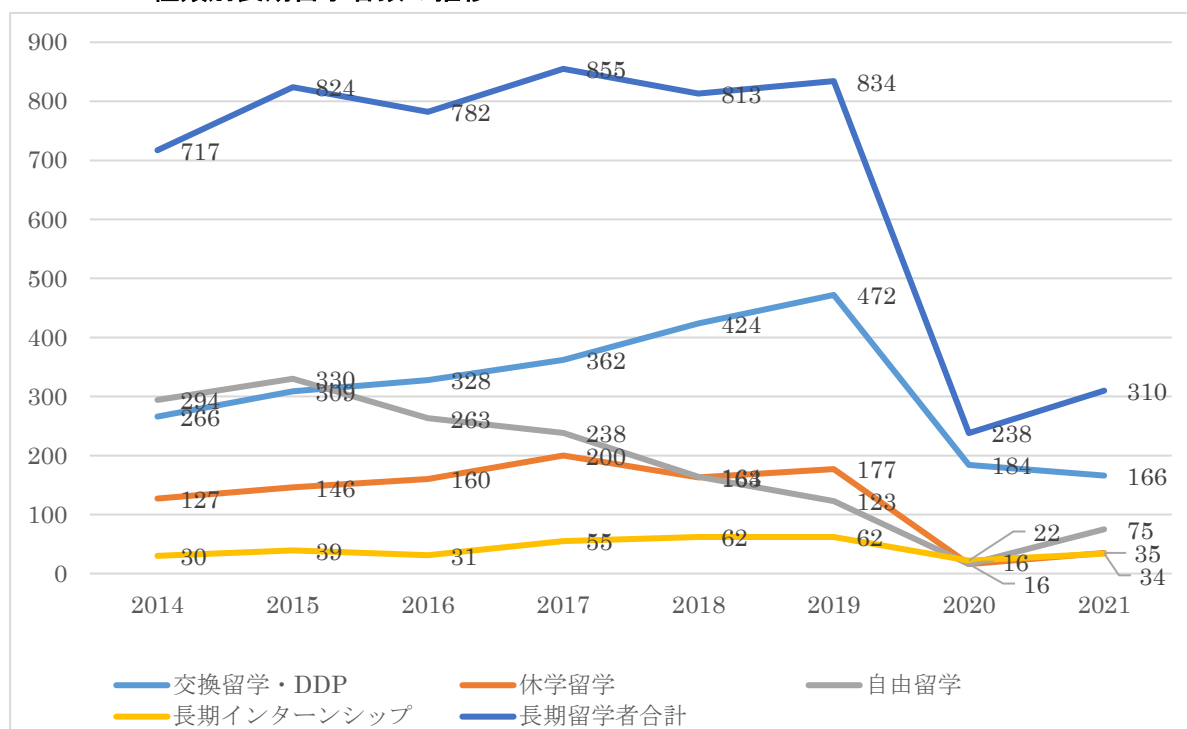
Table 2. 2014-2021 留学者数の推移



留学者総数は、2020 年度と比較すると若干の増加となりましたが低水準のままです。これは、2020 年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響によるものです。前年度からの渡航者は 20 名程度で、ほとんどが 2021 年度の新規出発者となります。2021 年度の夏頃から、長期派遣を再開したことにより、280 名近い学生が新規渡航を実現しています。

実渡航を伴う短期留学プログラムは 2020 年度に引き続き全て中止となりましたので、短期留学者は 2 年連続でゼロとなっています。

Table 3. 種類別長期留学者数の推移



① 長期留学者数合計について：昨年度よりも若干増加

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、交換留学生の派遣を中止しましたが、2021年度は夏から派遣を再開しました。外務省の発出する危険情報において、感染症危険レベルが全世界で2以上となっていました。特例措置として、新型コロナウイルス感染症を原因とする感染症危険レベル2、3地域への渡航を一定条件のもと認めることとし、その結果、2021年度は、約300名の学生が長期留学を経験しました。

② 長期留学 種類別における傾向

交換留学の人数が、2020年度に比べて減少しているように見えますが、2020年度の留学者は全員2019年度出発で2020年度に帰国した学生です。それに対して、2021年度はほぼ全員が新規出発者となります。休学留学や自由留学もほぼ同様と言えます。2021年度出発者の多くが2022年度も継続して現地滞在をするため、2022年度にはさらに留学者数は増加すると考えられます。

給付型奨学金受給状況

以下は、2021年度に留学を経験した学生のうち交換留学、その他で分けた場合の受給状況となります。例年通り、交換留学の学生は多数が何らかの奨学金を受給しており、休学等の場合は奨学金受給の機会が少ないことが伺えます。

Table 4-1. 奨学金受給状況（交換留学生）

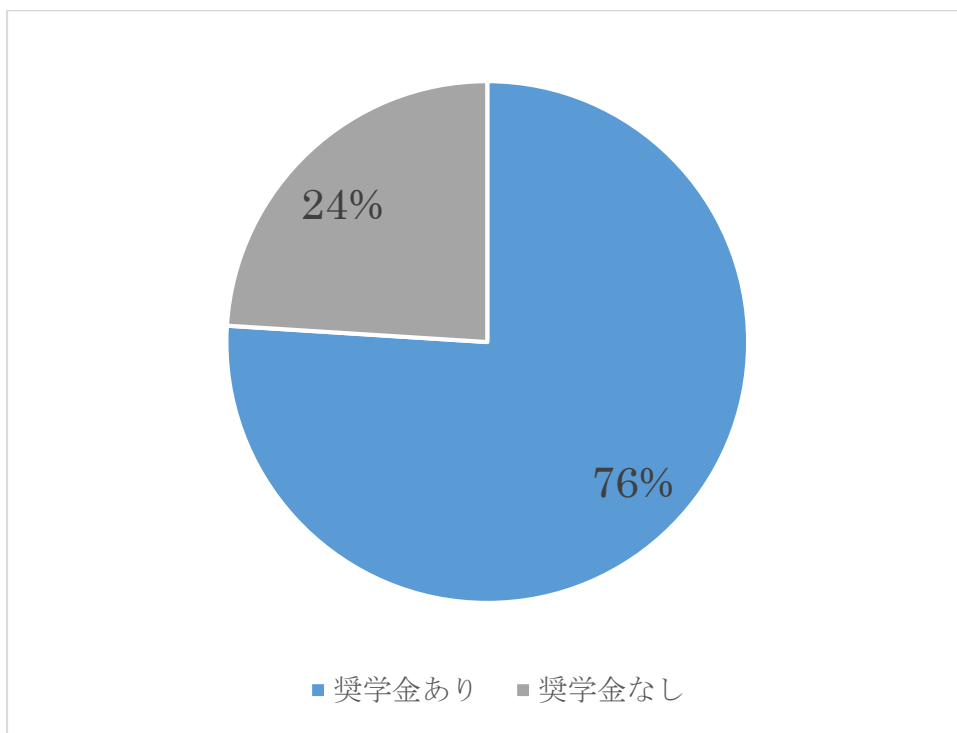


Table 4-2. 奨学金受給状況（休学・自由留学、長期インターンシップ※公務は除く）

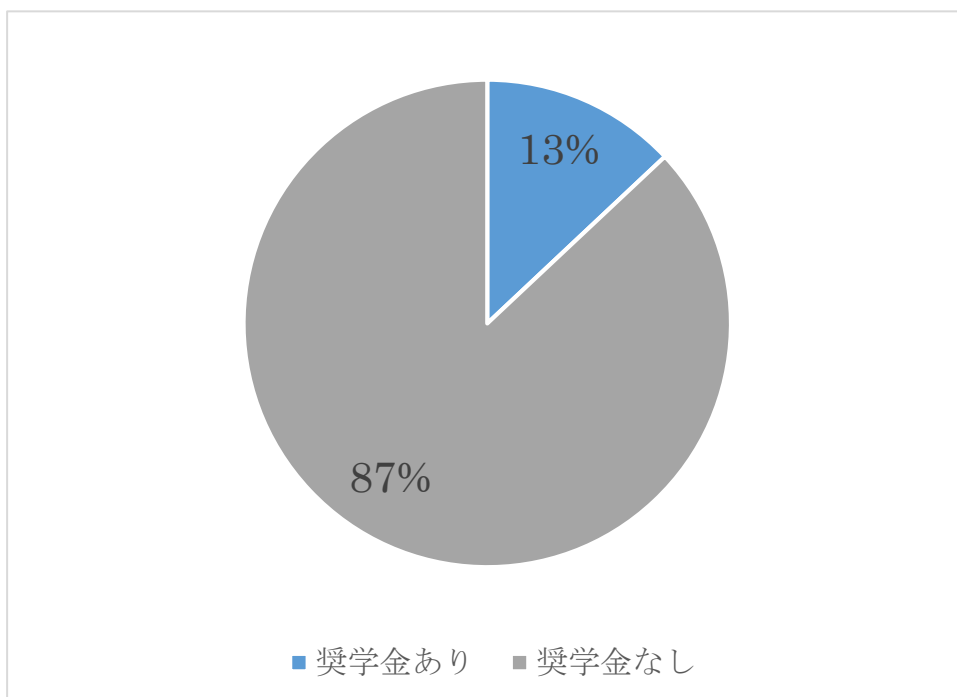
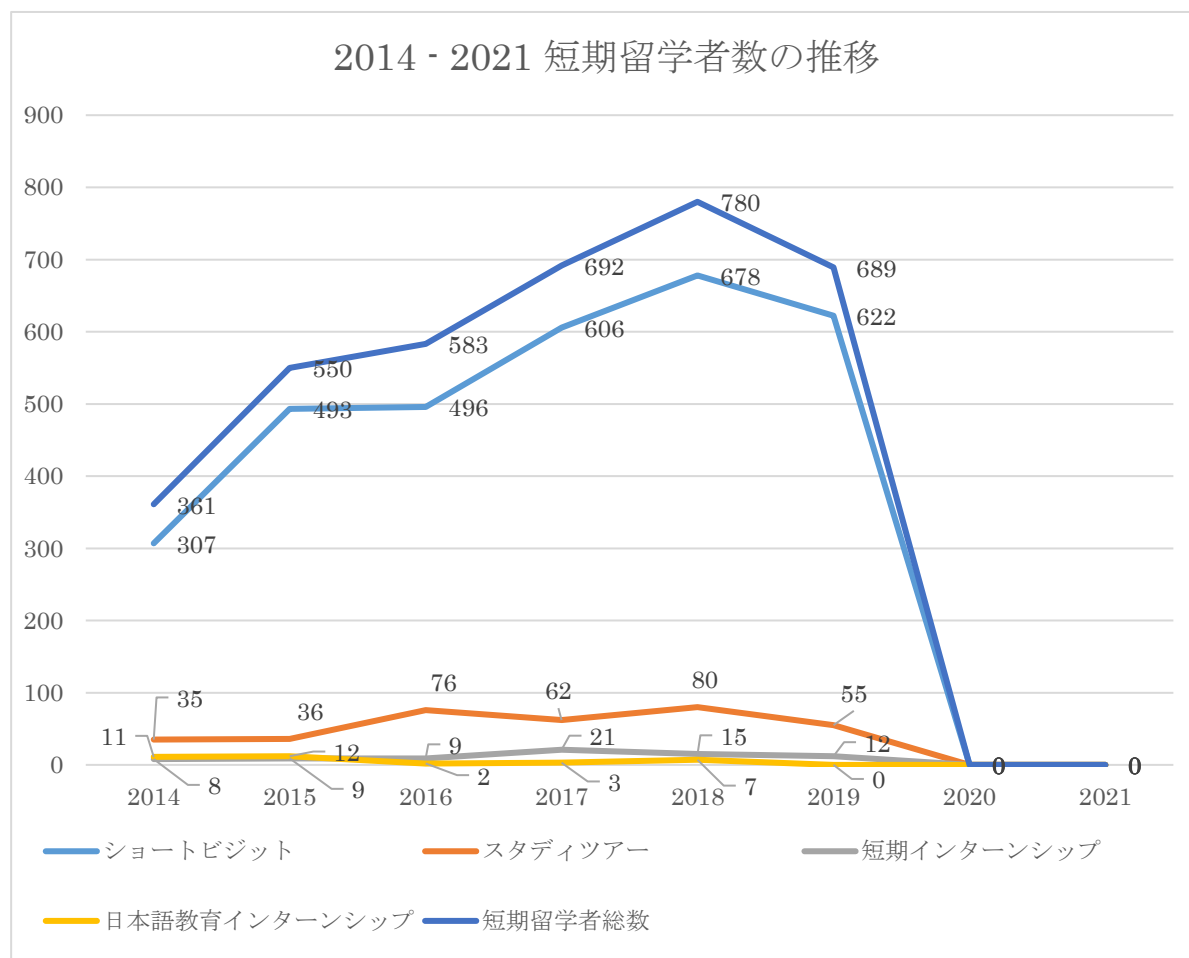


Table 5. 2021年度短期留学者数



	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
ショートビジット	307	493	496	606	678	622	0	0
スタディツアー	35	36	76	62	80	55	0	0
短期インターンシップ	8	9	9	21	15	12	0	0
日本語教育インターンシップ	11	12	2	3	7	0	0	0
短期留学者総数	361	550	583	692	780	689	0	0

●短期留学者数合計について：新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、現地渡航を伴う短期のプログラムはすべて中止となりました。

ショートビジットは、2014年度から毎年順調に参加人数を増やしてきましたが、2021年度は前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の影響により派遣することができませんでした。

Ⅲ. データから見える課題について

①長期留学の種類について

2021年度の傾向として顕著なのは、自由留学の人数増です。これまで、休学して留学するケースでは、自由留学が減少し、代わりに休学留学が増加するという傾向が続いていました。2021年度はその傾向が逆転しました。これは、コロナ禍で大学としては学生の海外派遣を中止しており、それにより休学留学（単位認定ありの留学）も認めない立場であったためと分析されます。

②留学の単位認定について

本学の留学の問題点の1つは、特に休学留学において、留学先で取得した単位を本学の単位に認定する手続きをしない学生が多い点です。取得した単位を本学の単位として認定するには、留学者本人が所定の書類を提出し、「単位認定申請」を行う必要があります。単位認定は帰国後1年以内に行うことになっています（休学留学の場合は、休学終了後1年以内）。そのため、2019年度に留学に出発した学生の単位認定は、2020年度または2021年度に行われるケースが、ほとんどになります。

留学白書2019に掲載されている交換留学者・休学留学者（2019年度に帰国した学生および出発した学生）の単位認定状況は以下のとおりです。

留学白書2019掲載者の単位認定状況

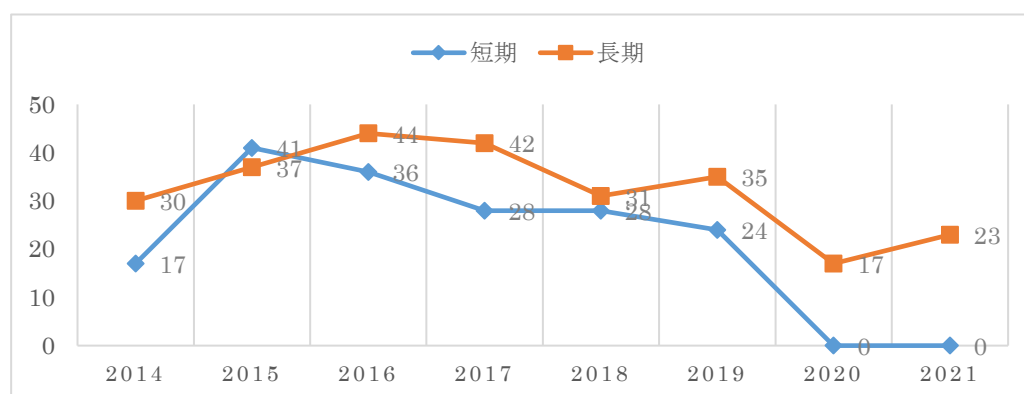
留学種類	留学者数	うち単位認定有 (2020年度末まで)	単位認定者率
交換留学	481	342	71%
休学留学	177	89	50%

留学から帰国後しばらくたった後に単位認定の手続きを行う学生もいるため、単位認定者は増えることが予想されます。交換留学者のうち約7割の学生が単位の認定を行っていますが、休学留学者の単位認定率は50%にとどまっています。休学留学者の単位認定者率は年々増加傾向にあるため、引き続き、積極的に単位認定をするよう学生に呼び掛けて参ります。

③大学院生の留学について

大学院生の留学の数は過去5年間でほとんど伸びが見られず、コロナ禍の中で2020年度に比べると長期派遣は若干増加、短期派遣はゼロのままでした。

2014年度から2021年度の大学院生の期間別留学者数の推移



IV. 2021 年度 留学状況

1. 学部学生（長期・短期総合）

①留学者総数

2021 年度の期間別留学者数は以下のとおりです。

2021 年度留学者総数（学部生）

留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
留学者数	0	310	310	3,801
オンライン留学	144	55	199	(参考)

2021 年度（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）の間に、留学を経験した学生の数は、長期留学者 310 人、短期留学者 0 人の、合計 310 人です。2020 年度は合計 238 人でしたので、若干の増加となりました。2021 年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンラインツールを利用した「オンライン留学」を経験した学生もおり、短期プログラムでは、オンラインのショートビジットプログラムに 131 名、オンライン国連研修に 13 名の計 144 名が、長期プログラム（交換留学）に 51 名、休学しての長期留学に 4 名が参加しました。なお、**長期留学者数には、2020 年度以前に留学を開始し 2021 年度中に帰国したものと、2021 年度中に出発して帰国したもの、また 2021 年度中に出発して 2022 年 3 月 31 日現在、海外滞在中のものを含みます。**

②学年別・期間別留学者数

2021 年度の渡航時学年別、期間別の留学者数は以下のとおりです。（実渡航者）

Table 6. 学年別・期間別留学者数（太字は 5 割を超えた数）

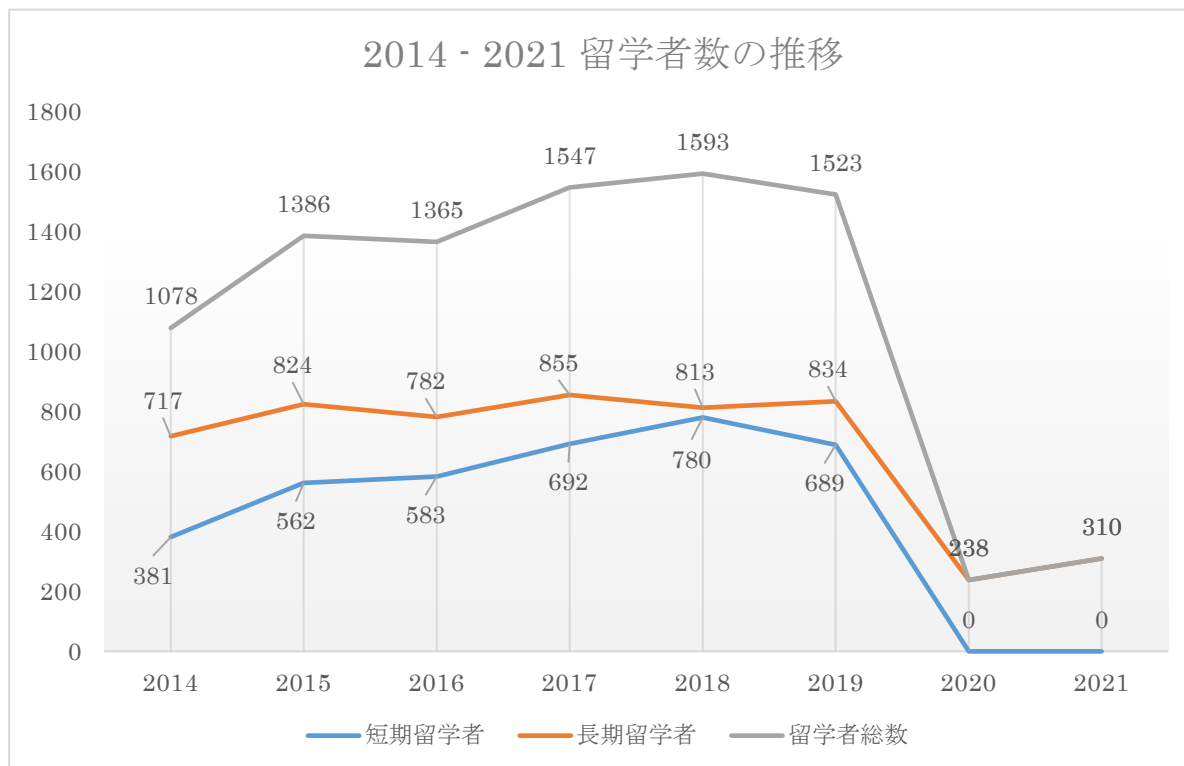
学年	短期	学生総数 中の短期 留学者数 の割合	長期	学生総数 中の長期 留学者数 の割合	留学者 総数(人)	留学者数 の割合	学生総数 (人)
1	0	0%	0	0%	0	0%	775
2	0	0%	15	1.8%	15	1.8%	818
3	0	0%	214	25.0%	214	25.0%	856
4	0	0%	81	6.0%	81	6.0%	1,352
合計	0	0%	310	8.2%	310	8.2%	3,801

2021 年度の実渡航を伴う留学者数は上記の通り 3 年生が大多数を占めています。なお、オンライン留学については、ショートビジット参加者 131 名中、1 年生 67 名、2 年生 48 名、3 年生 13 名、4 年生 3 名でした。スタディツアー（国連研修プログラム）参加者 13 名中、1 年生 12 名、2 年生 1 名でした。オンラインの長期留学（交換留学）の参加者 55 名中、2 年生 1 名、3 年生 16 名、4 年生 38 名でした。

③2014 年度から 2021 年度の期間別留学者数の推移

留学白書作成を開始した 2014 年度から 2021 年度までの期間別留学者数の推移は、以下のとおりです。

Table 7. 2014 年度から 2021 年度の期間別留学者数の推移

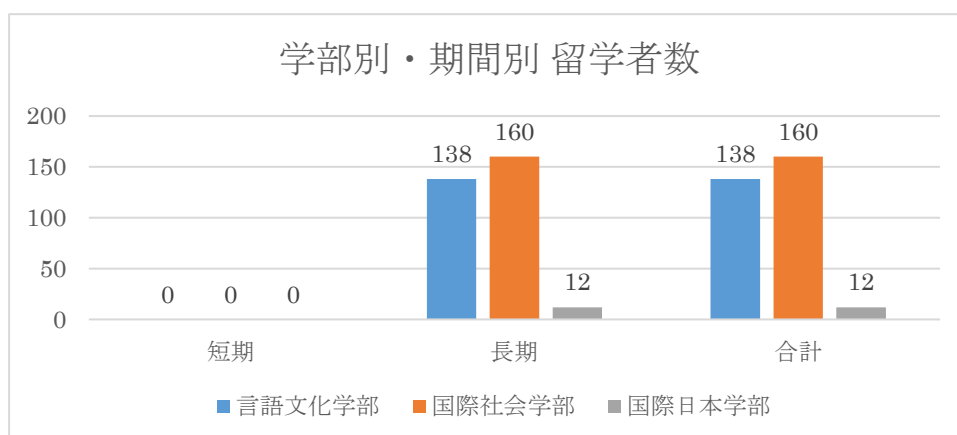


2021 年度は、2020 年度と比較すると若干増加しましたが、依然として新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、2019 年度以前と比較すると留学者数は大幅に減少しました。

④学部別・期間別留学者数

学部別・期間別の分布は次のとおりです。

Table 8. 学部別・期間別留学者数



言語文化学部と国際社会学部の留学者数を比べた場合、国際社会学部が若干多くなりました。国際日本学部は、2019 年度に開設されたこともあり、2021 年度の留学者は少数でした。

⑤専攻言語別・期間別留学者数

専攻言語による留学者数・率は下記の通りですが、全世界が渡航困難な状況となっているため、比較して何らかの有意な事象を考察することが難しく、参考程度のデータとして掲載しています。

Table 9. 専攻言語別・期間別留学者数 (留学者の割合が多い順)

専攻言語	学生総数	短期留学		長期留学		留学者総数	
		留学者数	割合	留学者数	割合	留学者合計	割合
マレーシア語	60	0	0%	11	18.3%	11	18.3%
ポーランド語	69	0	0%	11	15.9%	11	15.9%
ドイツ語	258	0	0%	37	14.3%	37	14.3%
ロシア語	299	0	0%	36	12.0%	36	12.0%
スペイン語	292	0	0%	35	12.0%	35	12.0%
フランス語	261	0	0%	27	10.3%	27	10.3%
ベトナム語	69	0	0%	7	10.1%	7	10.1%
イタリア語	138	0	0%	13	9.4%	13	9.4%
トルコ語	65	0	0%	6	9.2%	6	9.2%
ポルトガル語	123	0	0%	11	8.9%	11	8.9%
英語	460	0	0%	36	7.8%	36	7.8%
カンボジア語	43	0	0%	3	7.0%	3	7.0%
朝鮮語	148	0	0%	10	6.8%	10	6.8%
ベンガル語	47	0	0%	3	6.4%	3	6.4%
フィリピン語	63	0	0%	4	6.3%	4	6.3%
ラオス語	48	0	0%	3	6.3%	3	6.3%
タイ語	81	0	0%	5	6.2%	5	6.2%
チェコ語	67	0	0%	4	6.0%	4	6.0%
ペルシア語	69	0	0%	4	5.8%	4	5.8%
アラビア語	141	0	0%	8	5.7%	8	5.7%
日本語	332	0	0%	18	5.4%	18	5.4%
インドネシア語	95	0	0%	5	5.3%	5	5.3%
中国語	288	0	0%	9	3.1%	9	3.1%
モンゴル語	66	0	0%	2	3.0%	2	3.0%
ウルドゥー語	68	0	0%	1	1.5%	1	1.5%
ヒンディー語	103	0	0%	1	1.0%	1	1.0%
ビルマ語	48	0	0%	0	0.0%	0	0.0%
総計	3801	0	0%	310	8.2%	310	8.2%

2. 学部学生（長期留学）

学部生の長期留学に関するデータを整理します。

①留学種類別・留学開始年度別長期留学者数

2021年度に留学を開始した学生は288人、うち交換留学・DDPが166人、休学をして留学（休学留学、自由留学、長期インターンシップ）した学生が122人です。

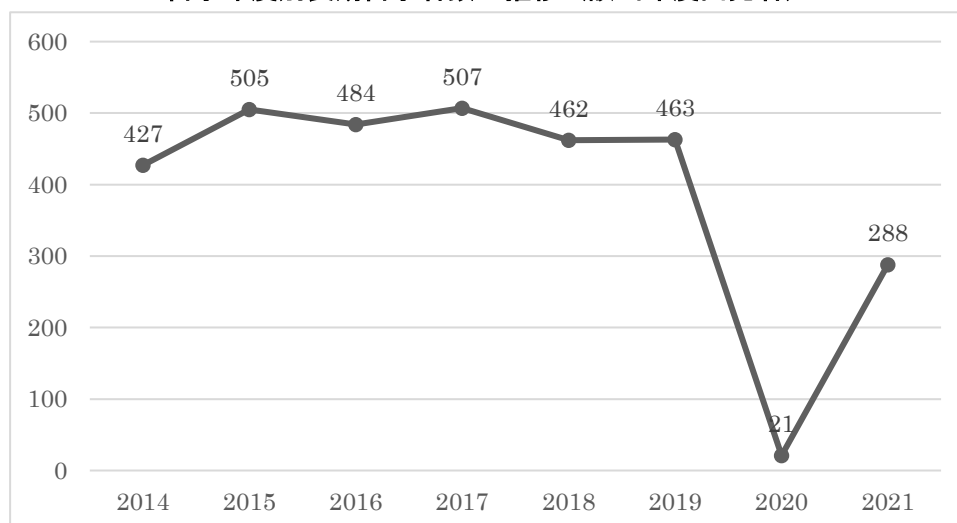
Table 11. 留学種類別・留学開始年度別長期留学者数

	～2020年度（前年度）出発者		2021年度出発者		合計
	～2020年度出発、 2021年度帰国	2020年度出発、 2021年度留学中	2021年度帰国	2021年度出発、 2022年度帰国	
交換・DDP	0	0	16	150	166
休学留学	1	0	29	5	35
自由留学	9	0	45	21	75
長期インターン	6	6	17	5	34
合計	16	6	107	181	310
	22		288		

②留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）

年度出発者の数の推移は以下のとおりです。長期留学を一部再開したことにより前年度から回復傾向にあります。

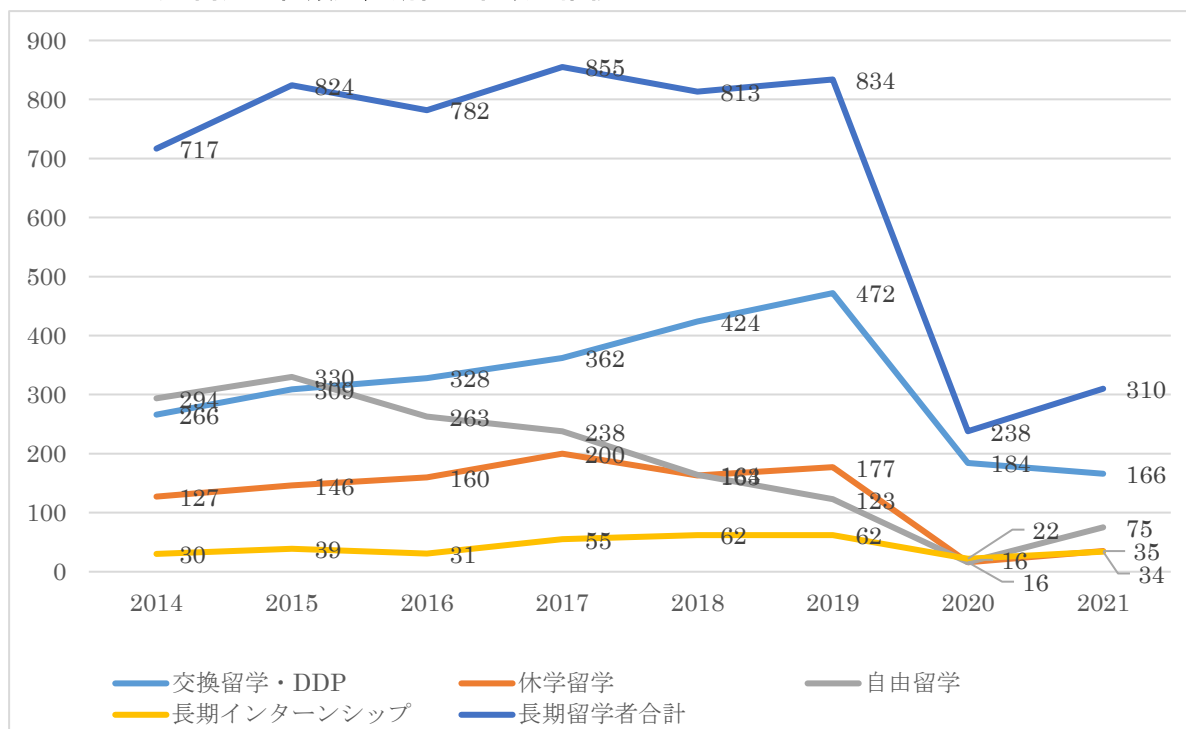
Table 12. 留学年度別長期留学者数の推移（該当年度出発者）



③留学種別長期留学者数の推移

長期留学の種別留学者数の2014年度からの8年間の推移は、以下の通りとなっています。

Table 3. (再掲) 種別長期留学者数の推移



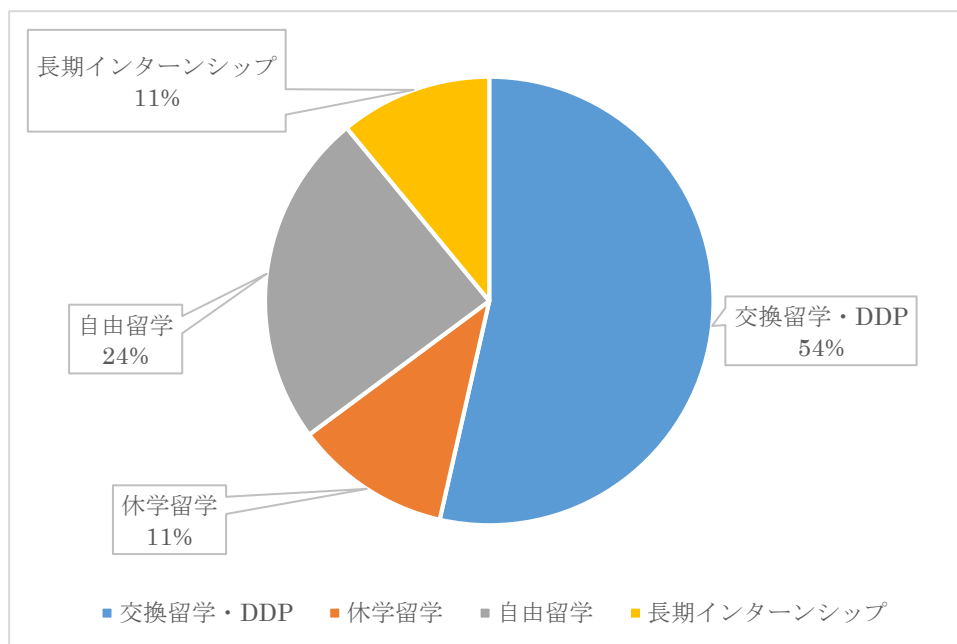
年度	交換留学・DDP	休学留学	自由留学	長期インターン	留学者数合計
2014年度	266	127	294	30	717
2015年度	309	146	330	39	824
2016年度	328	160	262	32	782
2017年度	362	200	238	55	855
2018年度	424	163	164	62	813
2019年度	472	177	123	62	834
2020年度	184	16	16	22	238
2021年度	166	35	75	34	310

2020年度と比較すると、留学者総数は若干増加しました。交換留学では、2020年度の新規出発者はゼロだったのに対して、2021年度は166名を派遣できました。休学留学に比べて自由留学の人数増が大きいのは、2021年度当初は、大学の派遣方針により休学留学を認めていなかったということに起因します。

④ 留学種類別長期留学者数と長期留学者総数に対する割合

長期留学の種類ごとの人数が全体に対してどの程度の割合になるかについては、以下のとおりとなります。交換留学は前年度出発者がゼロだったこともあり、全体に占める割合は半分程度となっています。休学しての留学・渡航については、自由留学が一番大きな割合を占めており、これは、大学の海外渡航に関する方針との関係で、2021 年夏までは休学留学を認めていなかったことに起因しています。

Table 13. 種類別 長期留学者数の割合

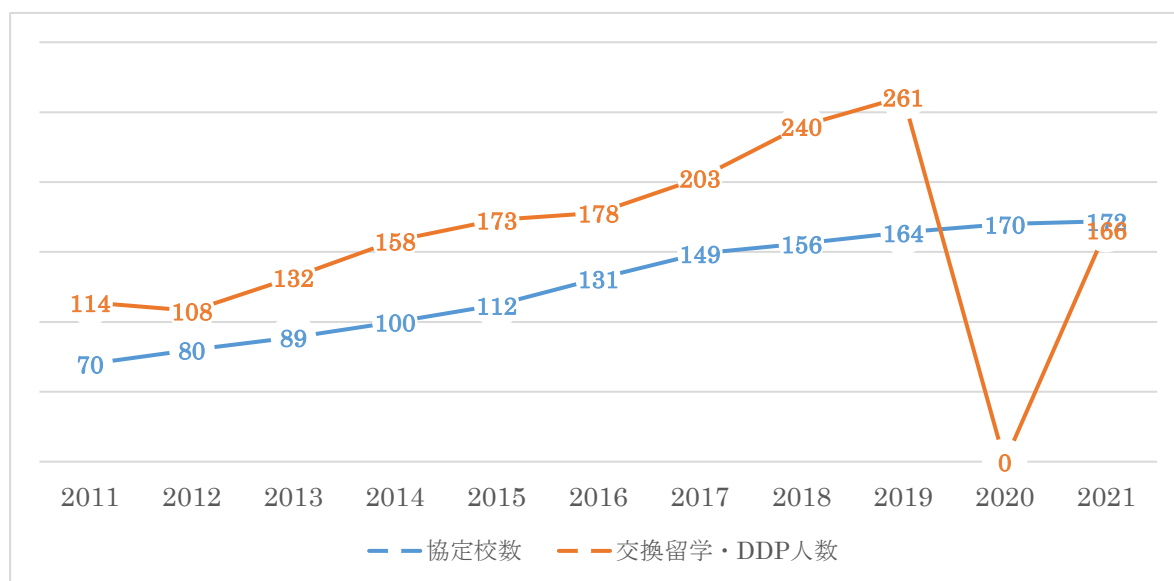


長期留学のうち、本学がもっとも推奨するのは、「交換留学」ですが、新型コロナウイルスのパンデミック下では、大学の留学プログラムを中止していたため、2021 年度では、交換留学者の割合が例年よりも少なくなっています。2022 年度以降は、例年と同様の傾向に戻っていくと思われま

⑤ 学生交流協定校数と交換留学者数の推移

2019 年度まで順調に交換留学者数が伸びていましたが、2020 年度は派遣を中止したためゼロとなり、2021 年度は夏から派遣を再開したため、派遣人数がある程度回復しました。学生交流協定校数は継続的に増加しています。2022 年度の派遣人数は、300 名程度を見込んでおり、これまでの増加パターンに戻ると思われます。

Table 14. 学生交流協定校数と交換留学者数（年度出発者）の推移



⑥留学先地域別・留学種類別長期留学者数

留学先としては、ヨーロッパが最も多くなっています。2カ国・地域以上に留学している場合、最初に留学した国・地域でカウントしています。

Table 15. 留学先地域別・留学種類別長期留学者数

地域名	交換留学 DDP	休学留学	自由留学	長期インターン シップ	合計
ヨーロッパ	114	15	30	1	160
北米	8	4	21	0	33
ロシア・中央アジア	18	4	5	1	28
東南アジア	8	5	3	9	25
東アジア	11	1	7	3	22
中南米	3	4	5	4	16
アフリカ	1	0	1	7	9
中東	3	1	1	4	9
オセアニア	0	0	2	2	4
南アジア	0	1	0	3	4
合計	166	35	75	34	310

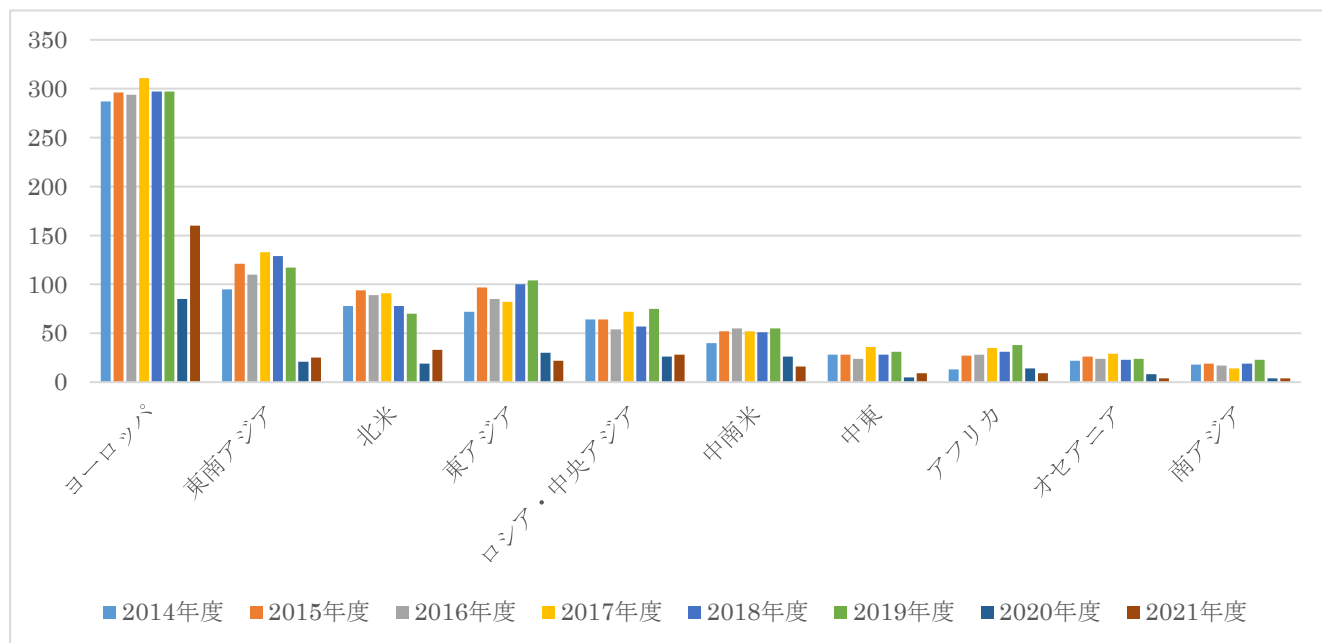
2021 年度に本学から長期留学をした学生の渡航先地域は、多い順にヨーロッパ、北米、ロシ

ア・中央アジア、東南アジア、東アジアとなっています。ヨーロッパや北米は、新型コロナによる入国規制を早い段階で緩和しており、そうした各国の措置の差が渡航先人数に影響しています。

⑦留学先地域別長期留学者数の推移

地域別長期留学者数の推移は以下のとおりです。

Table 16. 留学先地域別長期留学者数の推移



留学先地域名	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
ヨーロッパ	287	296	294	311	297	297	85	160
東南アジア	95	121	110	133	129	117	21	25
北米	78	94	89	91	78	70	19	33
東アジア	72	97	85	82	100	104	30	22
ロシア・中央アジア	64	64	54	72	57	75	26	28
中南米	40	52	55	52	51	55	26	16
中東	28	28	24	36	28	31	5	9
アフリカ	13	27	28	35	31	38	14	9
オセアニア	22	26	24	29	23	24	8	4
南アジア	18	19	17	14	19	23	4	4
留学者数合計	717	824	780	855	813	834	238	310

2021年度では、東アジア諸国は新型コロナウイルス感染拡大の影響による厳しい入国規制が続いたため、留学者数が大きく減少しています。相対的に、ヨーロッパへの渡航者が突出して多くなっています。

⑧留学先国別・留学種類別長期留学者数

2021年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年とは留学状況が大きく変化しました。留学先国として、これまで人数が多かった国としては、ドイツ、アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、などが挙げられますが、2021年度は、ドイツ、イギリス、フランス、ロシア、カナダの順になっています。

Table 17. 留学先国別・留学種類別長期留学者数

	国名	交換留学 ・DDP	休学留学	自由留学	長期インター ンシップ	合計
1	ドイツ	25	1	4	0	30
2	イギリス	21	2	2	0	25
3	フランス	10	1	8	0	19
3	ロシア	12	4	3	0	19
3	カナダ	2	2	15	0	19
6	スペイン	13	1	3	0	17
7	イタリア	13	1	2	0	16
8	韓国	10	1	3	1	15
9	アメリカ	6	2	6	0	14
10	ポーランド	2	5	3	1	11
10	アイルランド	7	1	3	0	11
12	マレーシア	1	4	0	3	8
13	台湾	0	0	4	2	6
14	フィンランド	2	1	2	0	5
14	メキシコ	0	1	0	4	5
14	ポルトガル	4	0	1	0	5
14	タイ	1	0	2	2	5
18	オーストリア	3	1	0	0	4
18	ブラジル	1	2	1	0	4
18	インドネシア	2	0	0	2	4
18	アラブ首長国連邦	0	0	0	4	4
18	スイス	4	0	0	0	4
18	カザフスタン	4	0	0	0	4
24	ベトナム	1	1	0	1	3
24	コロンビア	0	0	3	0	3
24	オーストラリア	1	0	1	1	3
24	バングラデシュ	0	0	0	3	3
24	トルコ	3	0	0	0	3

29	アルゼンチン	1	1	0	0	2
29	ルワンダ	1	0	0	1	2
29	ベルギー	2	0	0	0	2
29	ブルガリア	2	0	0	0	2
29	ウズベキスタン	2	0	0	0	2
29	ブルネイ	2	0	0	0	2
35	ルクセンブルグ	0	1	0	0	1
35	インド	0	1	0	0	1
35	ヨルダン	0	1	0	0	1
35	フィジー諸島	0	0	1	0	1
35	チリ	0	0	1	0	1
35	ベラルーシ	0	0	1	0	1
35	シンガポール	0	0	1	0	1
35	デンマーク	0	0	1	0	1
35	マルタ共和国	0	0	1	0	1
35	エジプト	0	0	1	0	1
35	イスラエル	0	0	1	0	1
35	ジンバブエ	0	0	0	1	1
35	ガーナ	0	0	0	1	1
35	エチオピア	0	0	0	1	1
35	アゼルバイジャン	0	0	0	1	1
35	キルギス	0	0	1	0	1
35	フィジー	0	0	0	1	1
35	南アフリカ	0	0	0	1	1
35	ナミビア	0	0	0	1	1
35	マダガスカル	0	0	0	1	1
35	ラオス	0	0	0	1	1
35	ウクライナ	1	0	0	0	1
35	ノルウェー	1	0	0	0	1
35	オランダ	1	0	0	0	1
35	リトアニア	1	0	0	0	1
35	チェコ	1	0	0	0	1
35	中国	1	0	0	0	1
35	カンボジア	1	0	0	0	1
	合計	166	35	75	34	310

留学先国・地域数合計：62

⑨長期留学者の給付型奨学金受給状況

交換留学者 165 人のうち、給付型奨学金を受給した学生は 125 人で、76%にのぼります。JASSO（日本学生支援機構）および本学の国際教育支援基金による奨学金が多くを占めますが、トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム奨学金や、民間財団の奨学金など、様々な方法で支援を受けています。

2021 年度に留学を経験した学生の給付型奨学金受給状況を、留学種別にまとめると以下のようになります。

Table 18. 長期留学者の奨学金受給者数

奨学金名	交換 留学	休学 留学	自由 留学	長期 インターン	合計
日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度	60	0	0	0	55
国際教育支援基金(本学)	37	0	0	0	37
トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム	5	2	1	1	9
業務スーパージャパンドリーム財団奨学金	17	0	0	0	17
経団連グローバル人材育成スカラーシップ	0	1	0	0	1
NAWA ポーランド政府奨学金	0	5	3	0	8
公益財団法人 ZEN CLUB 奨学金	0	0	1	0	1
高円宮記念クイーンズ大学留学奨学金	0	0	1	0	1
華語文奨学金	0	0	1	0	1
南インドアナ日本人補習校南インドアナ大学 留学プログラム	0	0	1	0	1
バーデン州自治体奨学金	1	0	0	0	1
ジュネーブ大学奨学金	1	0	0	0	1
JASSO、ジュネーブ大学奨学金	1	0	0	0	1
飯塚教育英会海外留学支援奨学金	1	0	0	0	1
佐藤陽国際奨学財団	1	0	0	0	1
寺浦さよ子記念奨学金	1	0	0	0	1
合計	125	8	8	1	142

なお、長期インターンシップの中には、在外公館派遣員 13 名、および日本語パートナーズ派遣事業 4 名が含まれており、これらは公務での渡航となり給与等が支給されるものです。奨学金扱いではないため、上記表中にはカウントされていません。

2021 年度は、JASSO の海外留学支援制度（協定派遣）において、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、留学期間が 9 カ月以上の留学を支援対象となったため、留学期間が 1 学期間の学生が応募できなくなりました。それらの学生を支援するため、本学の国際教育支援基金から臨時的に財政出動を行い、留学する学生の支援を実施しました。

交換留学、その他で分けた場合の奨学金受給状況は以下のとおりです。

Table 4-1. 奨学金受給状況（交換留学生）（再掲）

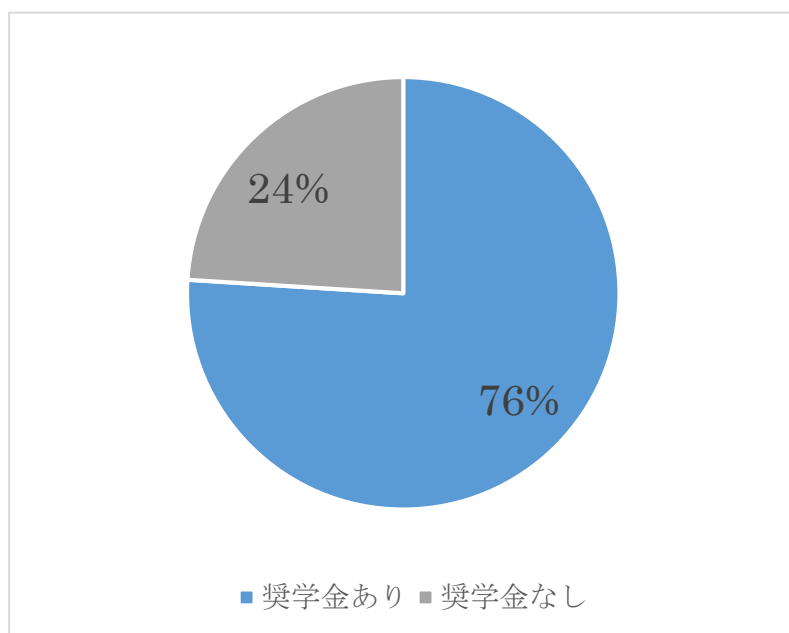
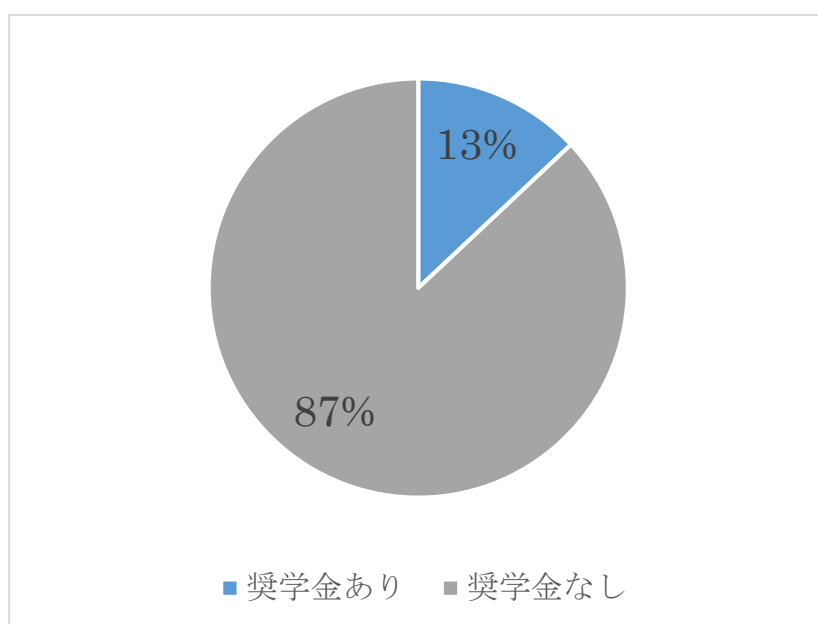


Table 4-2. 奨学金受給状況（休学・自由留学、長期インターンシップ）（再掲）



交換留学制度を利用して留学をした学生の方がはるかに受給率が高いことがわかります。これは、奨学金の応募要件に学生交流協定に基づく留学であることとの指定のある奨学金が多いためです。経済的支援が必要な留学希望者は、まず交換留学を目指すことが留学実現への近道となります。

留学種類別の奨学金の受給率は以下のとおりです。

Table 19. 長期留学種類別奨学金受給率

	受給者数 (人)	留学者合計(人)	奨学金受給率
交換留学	125	165	75.7%
DDP	0	1	0%
休学留学	8	35	22.9%
自由留学	8	75	10.7%
長期インターンシップ	1	34	0.3%
合計	142	310	45.8%

⑩2019 年度長期留学者の単位認定状況

留学者が長期留学先で取得した単位を本学の単位として認定するには、留学者本人が所定の書類を提出し、「単位認定申請」を行う必要があります。交換留学の場合、単位認定は帰国後1年以内に行うことになっています。休学留学の場合は、休学終了後1年以内に行うこととなります。そのため、2019年度に留学に出発した学生の単位認定の大部分は、2020年度または2021年度に行われることとなります。

2019年度に出発、または帰国した学生の単位認定状況は、2022年3月31日現在以下のとおりとなっています。

Table 20. 2019年度に出発・帰国した交換・休学留学者の単位認定状況 (2022.3.31現在)

	単位認定済 (人)	単位認定未済 (人)	合計 (人)	単位認定実施率
交換留学	342	139	481	71.1%
休学留学	89	88	177	50.3%

JASSOの奨学金を受給するためには、留学中の単位取得が必須となっています。ただし、留学先で取得した単位を本学の単位として認定する手続きをしない学生も一定数います。

3. 学部（短期留学）

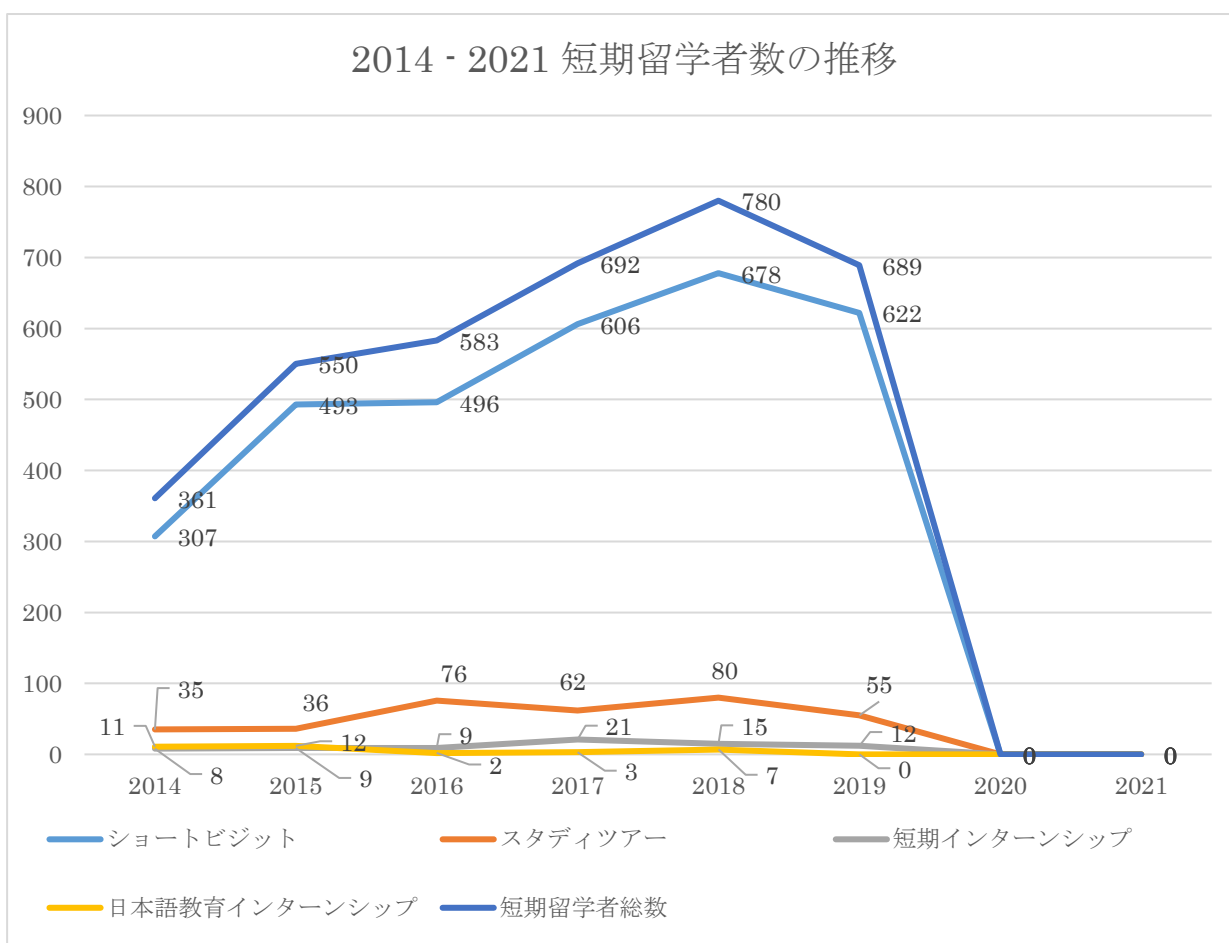
2021年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、短期留学プログラムは全て中止となりました。従って、派遣実績はありません。本項目では、参考までに経年推移のみ掲載しておきます。

①留学年度別・留学種類別短期留学者数の推移

短期 Table3（再掲）

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
ショートビジット	307	493	496	606	678	622	0	0
スタディツアー	35	36	76	62	80	55	0	0
短期インターンシップ	8	9	9	21	15	12	0	0
日本語教育インターンシップ	11	12	2	3	7	0	0	0
短期留学者総数	361	550	583	692	780	689	0	0

短期 Table4（再掲）



4. 大学院生（短期・長期）

本学の大学院の在籍者 517 人（2021 年 5 月 1 日現在）に対し、留学者数は、必ずしも多くはありません。

①大学院生の長期留学について

院 Table 1. 大学院生の留学種類別長期留学状況

	2020 年度以前 出発、2021 年 度帰国	2020 年度以前 出発、2021 年 度留学中	2021 年度出発、 帰国	2021 年度出発、 2022 年度以降 帰国	合計
交換留学	0	0	0	2	2
自由留学	0	5	0	6	11
長期インターンシ ップ	2	2	0	2	6
ダブルディグリー (HIPS)	0	0	4	0	4
合計	2	7	4	10	23

②大学院生の短期留学について

院 Table 2. 大学院生の留学種類別短期留学状況

留学種類	人数
JEP	0
ショートビジット	0
スタディツアー	0
短期インターンシップ (日本語教育)	0
留学者合計	0

長期留学においては休学をして留学をする自由留学の人数が多くなっています。大学院生が休学をして留学をする場合については、単位認定の制度はありません。大学院生の留学についても、新型コロナウイルス感染拡大による影響が出ています。

短期留学については、2021 年度の派遣実績はありません。

③大学院生の奨学金受給状況

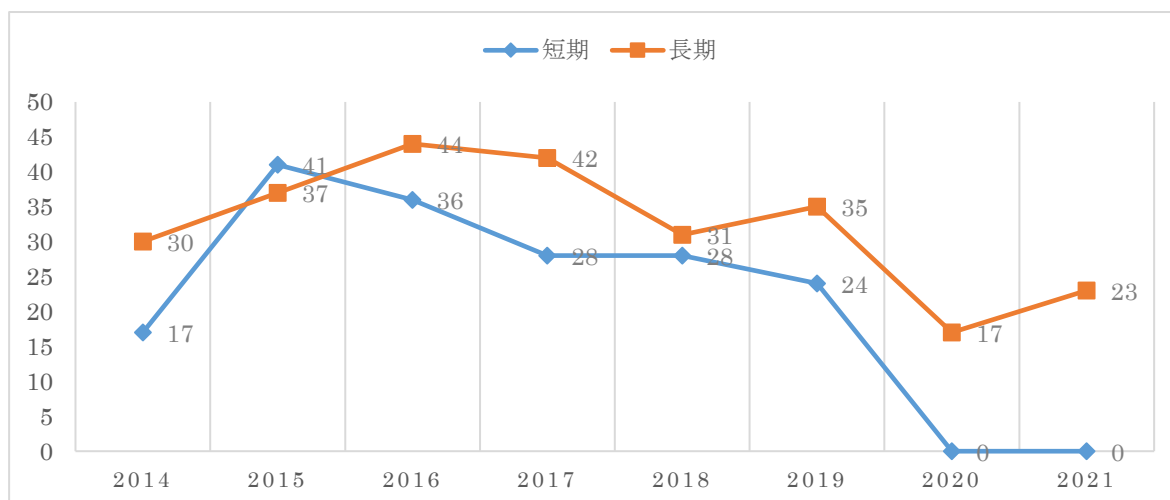
短期・長期を合わせた留学種類別の奨学金受給状況は以下のとおりです。

院 Table 3. 留学種類別奨学金受給状況

奨学金名称	長期				合計
	交換留学	自由留学	長期インターンシップ	DDP (HIPS)	
日本学生支援機構 (JASSO) 海外留学支援制度	1	0	0	3	4
松下幸之助国際スカラシップ	0	3	0	0	3
日本学術振興会	0	1	0	0	1
台湾教育省台湾奨学金	0	1	0	0	1
チェコ政府奨学金	0	1	0	0	1
NAWA ポーランド政府奨学金	0	1	0	0	1
奨学金なし	1	4	6	1	12
留学者合計	2	11	6	4	23

2021年度は交換留学に参加した2名のうち1名がJASSOの奨学金を受給して留学しています。各国政府による奨学金は、大学院レベルに対して支給されるものも多く、2021年度は3名が各国政府の奨学金を得ています。また、長期インターンシップでは奨学金なし、となっていますが、在外公館派遣員などで海外渡航するものもあり、現地で報酬を得ているケースもあります。2021年度では、6名全員が在外公館派遣員として各国の日本大使館等で勤務しています。

院. Table 4 2014年度から2021年度の大学院生の期間別留学者数の推移



大学院生の留学者数においても、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、2020年度に人数が大幅に減少し、2021年度は若干回復したものの依然として少数のままです。大学院レベルでの留学者数が少ない原因として、大学院生517名のうち、45.8%にあたる237名が留学生であることも影響しています。

5. オンライン留学の状況

2021年度は、交換留学での派遣を一部再開したものの、短期渡航は軒並み中止となりました。本学を含め世界各地の高等教育機関では、対面授業の代わりにオンライン授業が導入され、2020年度に引き続き、いわゆる「オンライン留学」を選択する学生も多数いました。ここでは、オンライン留学の実績について記載します。

実渡航を伴う留学とオンライン留学を合わせた人数（学部、大学院の合計）

留学期間	短期	長期	留学者総数	学生総数
実渡航を伴う留学者数	0	310	310	3,801
オンライン留学者数	145	55	200	
合計	145	365	510	

①セメスター単位でのオンライン留学

交換留学のうち、2021年度に協定校にオンライン留学を実施した人数は届け出ベース（※）で51名となっています。また、18名は、オンライン授業を受講後に実渡航をしています（この18名は実渡航にカウント）。

※2022年度3月の国際マネジメントオフィス留学部会にて承認された分までをカウント

オンライン受講者の協定校の所在先国ごとの人数

No.	国名	人数	No.	国名	人数
1	ロシア	7	12	スイス	1
2	イタリア	6	13	メキシコ	1
3	中国	6	14	リトアニア	1
4	フランス	4	15	ウクライナ	1
5	台湾	4	16	カンボジア	1
6	ポーランド	3	17	インド	1
7	ベトナム	3	18	ドイツ	1
8	タイ	3	19	オーストリア	1
9	アメリカ	2	20	韓国	1
10	インドネシア	2	21	フィリピン	1
11	イギリス	1			
					51

また、休学してオンライン留学を実施した人数は、4名です。（中国3名、フィリピン1名）
交換留学と休学しての留学合計で、55名がセメスター単位のオンライン留学を経験しました。

②短期プログラム（ショートビジットプログラムの代替等）

【2021年度通年（夏学期および冬学期）】

No.	協定校名	コース内容	参加人数
1	アリー・バーバー・インターナショナル・センター	アラビア語	12
2	シロンスク大学	ポーランド語	11
3	アンカラ大学	トルコ語	10
4	ゲッティンゲン大学	ドイツ語	10
5	ラオス国立大学	総合型	10
6	ソウル大学	朝鮮語	8
7	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学	ベトナム語	7
8	モスクワ国立大学	ロシア語	7
9	サンフランシスコ州立大学	英語	5
10	ブリティッシュ・コロンビア大学	英語	5
11	ミュンヘン大学	ドイツ語	5
12	ヴィータウタス・マグヌス大学	リトアニア語	4
13	アイルランド国立大学コーク校	英語	3
14	レジャイナ大学	英語	3
15	サラマンカ大学	スペイン語	3
16	マラガ大学	スペイン語	3
17	上海外国語大学	中国語	3
18	北京語言大学	中国語	3
19	国立台湾大学	中国語	3
20	デラウェア大学	英語	2
21	梨花女子大学	朝鮮語	2
22	北京大学	中国語	2
23	カリフォルニア大学サンディエゴ校	英語	1
24	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	英語	1
25	ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院	英語	1
26	ペルージャ外国人大学	イタリア語	1
27	ウィーン大学	ドイツ語	1
28	マサリク大学	総合型	1
29	トリーア大学	ドイツ語	1
30	淡江大学	中国語	1
31	香港中文大学	中国語	1
32	ザバーン・ランゲージ・インスティテュート	ウルドゥー語	1
33	慶熙大学	朝鮮語	1
合計			132

オンラインプログラムもショートビジットに準じて単位認定を行いました。ラオス国立大学、アリー・バーバー・インターナショナルセンター、アンカラ大学、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学の4機関については、全員型プログラムとして実施したため、参加人数が他のプログラムに比べると多くなっています。学年別での参加人数は、1年生が67名、2年生が48名、3年生が13名、4年生が3名、院生が1名の合計132名となっています。

また、例年冬学期に実施されている「国連スタディツアー」はオンライン開催され、13名の学生が参加しました。（スタディツアー科目ではなく、集中講義として実施）

V. 2021 年度学部卒業時点での留学状況について

2021 年度（3 月）には、921 名の学部生が卒業しました。921 人の在学中の留学状況をまとめると以下ようになります。（オンライン留学もカウントしています。）

卒業生（外国籍学生を含む）

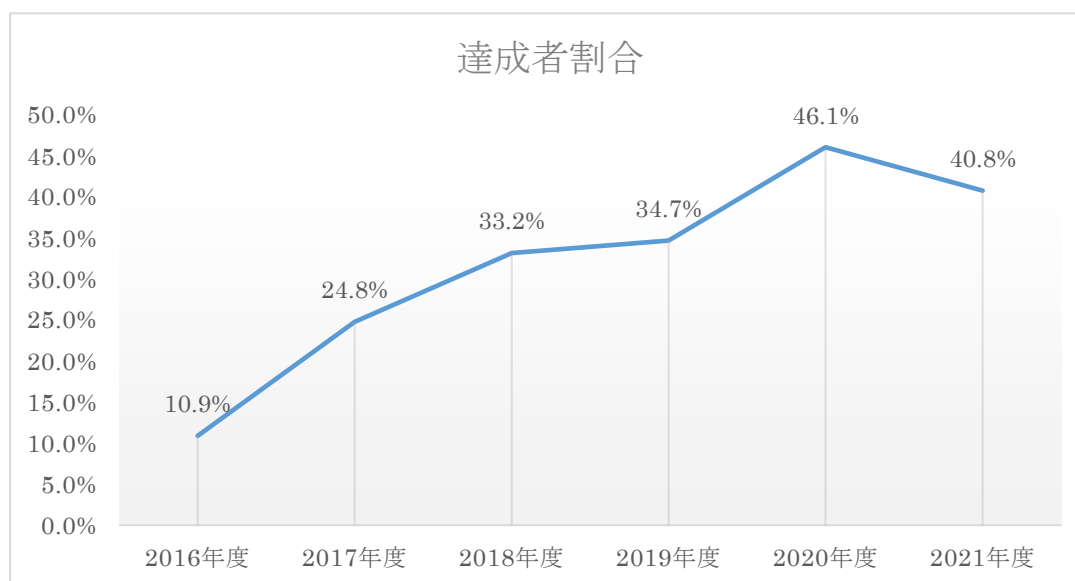
留学回数	人数	2 回以上留学者数	割合
0 回	204	376	40.8%
1 回	341		
2 回	271		
3 回以上	105		
合計	921	376	40.8%

※休学を伴わない私的な短期の留学等は対象外としています。

卒業生（日本国籍保持者のみ）【参考】

留学回数	人数	2 回以上留学者数	割合
0 回	170	375	42.6%
1 回	336		
2 回	270		
3 回以上	105		
合計	881	375	42.6%

本学では、スーパーグローバル構想の中で「留学 200%」つまり、在学中に 2 度またはそれ以上の留学をすることを推奨しています。留学を 2 回以上経験した学生の全学生数に対する割合は、2017 年度が 24.8%、2018 年度が 33.2%、2019 年度が 34.7%で、2020 年度は 46.1%、2021 年度は 40.8%となりました。2021 年度卒業生は新型コロナウイルス感染拡大の影響を若干受けており、そのため達成者割合は、2020 年度に比べて若干減少したと考えられます。



①卒業生の在学中の長期留学回数

長期留学を経験した学生の数を留学回数ごとにまとめました。

留学回数	留学者数	うち長期留学 経験者数	短期のみ経験 者数
1	341	91	250
2	271	197	74
3	88	78	10
4	16	15	1
5	1	1	0
合計	717	382	335

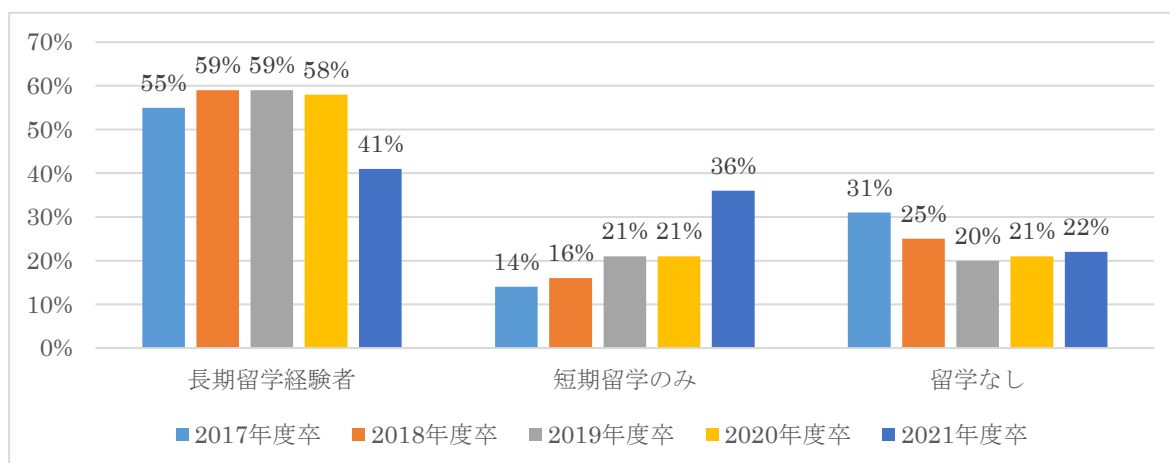
このデータから、留学をした学生のうち 53.3% (2020 年度は 72.9%) は長期留学を経験しており、全体の卒業生 921 名のうち 41.5% の学生が長期留学を経験したことがわかります。前年度に比べると、長期留学を経験した割合が低下しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響と思われる。

②2017～2020 年度と 2021 年度の卒業生の留学状況の比較

2017～2020 年度、および 2021 年度卒業生の留学状況の推移をまとめました。長期留学経験者、短期留学のみの経験者、留学なし、それぞれの数について、比較しています。

全体の卒業生数が年度により増減するため、人数ではなく、卒業生数に対する割合を比較します。特筆すべきは、留学しない学生の割合はあまり変化がないものの、2021 年度卒では、短期留学のみの学生の増加です。コロナ禍で海外派遣が中止となった影響がこの統計データに明確に表れていると考えられます。

留学種類	2017 年度卒	2018 年度卒	2019 年度卒	2020 年度卒	2021 年度卒
長期留学経験者	399 (55%)	474 (59%)	463 (59%)	424 (58%)	382 (41%)
短期留学のみ	102 (14%)	132 (16%)	163 (21%)	157 (21%)	335 (36%)
留学なし	226 (31%)	201 (25%)	160 (20%)	156 (21%)	204 (22%)
合計	727 (100%)	807 (100%)	786 (100%)	737 (100%)	921 (100%)



③2021 年度（2022 年 3 月）の卒業生の入学年度別の留学状況

2021 年度卒業生の入学年度別の留学状況は以下の表の通りです。

入学年度	人数	留学なし	留学 1 回	留学 2 回	留学 3 回以上
2013 年度	1	0	1	0	0
2014 年度	6	4	1	0	1
2015 年度	9	4	1	4	0
2016 年度	40	9	18	9	4
2017 年度	416	44	104	190	78
2018 年度	422	119	213	68	22
2019 年度	10	7	3	0	0
2020 年度	17	17	0	0	0
合計	921	204	341	271	105

2019 年度、および 2020 年度入学者は、3 年次編入の学生です。

2018 年度入学者は 4 年間で卒業した学生で、留学回数 1 回の学生が多く、2017 年度入学者は 5 年間で卒業した学生で、留学回数 2 回の学生が一番多くなっています。2018 年度に入学した学生は、3 年次（2020 年度）及び 4 年次（2021 年度）が、新型コロナウイルス感染拡大のタイミングとなっており、この期間に留学ができなかった影響が見て取れます。

VI.SGU 指標 (2022年6月 フォローアップ調査)

留学については、文科省「スーパーグローバル大学創生事業」が定める算定方法により「日本人学生に占める留学経験者の割合」と「大学間協定に基づく交流数」の算出が求められています。また、本学のSGU構想では、独自の指標として「世界各地への留学数」と「留学200%の達成数」を掲げています。

◆ SGU 指標：1. 国際化関連 (2) 流動性 ①日本人学生に占める留学経験者の割合

文科省定義：

- ・全学生数と、日本国籍を保有し正規課程に在籍する学生で、且つ、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。この場合、留学期間は問わない。
- ・大学院生について、教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された学生の数を記入する。この場合、単位取得の有無は問わない。

注1) 単位取得を伴う海外留学経験者数(A)については、過去の経験は除き、当該年度に申請大学において単位認定された学生数を計上。

注2) 当該年度に同じ学生が複数回、単位取得を伴う留学を経験した場合であっても1人として計上。

注3) 全学生数(D)は学校基本調査の定義の全学生から外国人留学生と在日外国人を除いた数(5月1日時点・非正規課程の学生を含む)。

1. 国際化関連 (2) 流動性 ①日本人学生に占める留学経験者の割合										
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R05
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
単位取得を伴う海外留学経験者数(A)(人)	119	393	699	750	845	972	847	332	204	1486
うち女性(人)				578	607	738	590	264	156	
うち学部(B)(人)	119	386	669	723	825	948	837	332	203	1460
うち女性(人)				558	593	722	583	264	155	
うち大学院(C)(人)	0	7	30	27	20	24	10	0	1	26
うち女性(人)				20	14	16	7	0	1	
全学生数(D)(人)	3979	3960	4019	3989	3988	3972	3982	3903	4318	3830
うち女性(人)				2589	2597	2597			2785	
うち学部(E)(人)	3667	3654	3737	3685	3670	3694	3693	3639	3801	3494
うち女性(人)				2427	2432	2431			2473	
うち大学院(F)(人)	312	306	282	304	318	278	289	264	517	336
うち女性(人)				162	165	166			312	
割合(A/D)%	3.0	9.9	17.4	18.8	21.2	24.5	21.3	8.3	4.7	38.8
割合(B/E)%	3.2	10.6	17.9	19.6	22.5	25.7	22.7	8.9	5.3	41.8
割合(C/F)%	0	2.3	10.6	8.9	6.3	8.6	3.5	0	0.2	7.7
教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された大学院生数(G)(人)	32	23	25	40	41	30	35	15	22	52
割合(G/F)%	10.3	7.5	8.9	13.2	12.9	10.8	12.1	5.7	4.3	15.5
日本国籍を有する正規学生数(全学生数)と、その内、単位取得を伴う留学を経験した学生の数を記入する。留学期間は問わない。また、大学院生について、教員の指導の下、3ヶ月以上の研究派遣された学生の数を記入する。単位取得の有無は問わない。										

2021年度は、実際のフォローアップ調査票では、留学者数の内訳に関して、女性の人数だけでなく、「実渡航」「オンライン」「ハイブリッド」に分けて報告した。

本学定義：

単位取得を伴う海外留学経験者数 (A) について

- ・①2021年度出発、帰国の学部生(女性)：単位認定をした日本国籍の交換留学9(8)、休学留学1(1)、ショートビジット126(98)、スタディツアー12(10)、日本語教育インターンシップ0(0) →148(117)
- ・②①に、前年度以前に留学し本年度に単位認定されたものを加える(日本国籍保持者) →学部+62(44)
- ・③②から本年度に2度の留学をし、2回とも単位取得しているもの(学部7(6)、大学院0(0))を差し引く。

以上を合計すると、学部生：203(155)

大学院 (C) について

- ・大学院生：日本国籍の単位認定をした交換留学0(0)、国際機関インターンシップ0(0)、大学院生向け TUFJ Joint Education Program 0(0)、日本語教育インターンシップ0(0)、ショートビジット1(1)、スタディツアー0(0) →1(1)
 - ・②①に、前年度以前に留学し本年度に単位認定されたものを加える →大学院0(0)
 - ・③②から本年度に2度の留学をし、2回とも単位取得しているもの →大学院0(0))を差し引く。
- 以上を合計すると、大学院生：1名(1)

教員の指導の下、3ヶ月以上研究派遣された大学院生数 (G) について

単位取得の有無は問わない。

3ヶ月以上派遣された日本国籍の大学院生(交換、自由、DDP(HIPS)、長期インターン)をカウント。22名(うち、女性15名)

◆SGU指標：1. 国際化関連 (2) 流動性 ②大学間協定に基づく交流数

文科省定義：

- ・外国の大学との連携・交流協定に基づき交流した学生数を記入する。
- ・日本人学生及び外国人留学生について、単位取得を伴う人数と、伴わない人数を学部生・大学院生別に記入する。

注1) 当該年度に同じ学生を複数回、派遣・受入した場合は延べ数で計上。

注2) 年度またぎの派遣・受入の場合はどちらの年度においても計上。その際、申請大学において単位認定された年度については「うち単位取得を伴う・・・」に、その他の年度については「うち単位取得を伴わない・・・」にそれぞれ計上。

注3) 日本人学生(A)の定義は、日本国籍を保有し申請大学の正規課程に在籍する学生。

注4) 全学生数(B・D)は学校基本調査の定義を引用(2021年5月1日時点・非正規課程の学生を含む)。

1. 国際化関連 (2) 流動性										
②大学間協定に基づく交流数										
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R05
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
大学間協定に基づく派遣日本人学生数 (A)	310	568	797	819	950	1093	1069	310	344	1672
うち女性				612	664	854	753	246	258	
うち単位取得を伴う学部生数	103	371	561	566	676	737	690	161	135	1442
うち女性				444	477	611	477	134	106	
うち単位取得を伴わない学部生数	205	189	218	232	258	324	360	147	206	200
うち女性				155	180	222	264	111	150	
うち単位取得を伴う大学院生数	0	7	16	18	12	23	10	0	1	26
うち女性				12	6	17	7	0	1	
うち単位取得を伴わない大学院生数	2	1	2	3	4	9	9	2	2	4
うち女性				1	1	4	5	1	1	
全学生数 (B)	4559	4592	4647	4721	4690		4414	3903	4318	4671
(うち女性)				3097	3051				2785	
割合 (A/B) (%)	6.8	12.4	17.2	17.3	20.3		25.1	7.9	8.0	35.8

本学定義：

大学間協定に基づく派遣日本人学生数 (A) について

うち単位取得を伴う学部生数

日本国籍を持つ単位認定済み交換留学、ショートビジットの日本国籍を持つ単位認定済み参加者数を合計し、協定に基づき二度の留学をして2回とも単位認定をしている学生を差し引く。

うち単位取得を伴わない学部生数

交換留学生で単位認定が未済の日本国籍保有者数を算出。これに単位認定のなかった夏学期のショートビジット参加者で日本国籍を持つ学生を加える。

うち単位取得を伴う大学院生数

日本国籍を持つ単位認定済み交換留学、ショートビジット、協定校へのJEP(非協定校除く)、協定に基づき二度の留学をして2回とも単位認定をしている学生を差し引く。

※前年度から継続して留学している者や翌年度にかけて留学している者を含む。

うち単位取得を伴わない大学院生数

交換留学生で単位認定が未済のものから、日本国籍以外の学生を引いた数を算出。これにショートビジットで単位認定のなかった日本国籍を持つ学生を加える。

◆独自指標

(指標3) 留学 200%達成者

本学定義：学部卒業生に占める2度の留学体験者の割合を算出する。留学の定義は、留学白書に掲載分すべて。学生の国籍は問わない。また、単位取得の有無は問わない。

(指標4) 本学学生の全世界的展開

本学定義：本学学部・大学院からの留学生の留学先を地域別に分類する。留学の定義は留学白書への掲載分すべて。学生の国籍は問わない。2回留学したものは、2回カウント。また、単位取得の有無は問わない。2地域・国に留学している学生（休学留学の場合）については、最初に行った国でカウント。

大学独自の成果指標と達成目標										
<定量的>										
年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03	R05
	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値	目標値
(指標3) 留学 200% 達成者 (%)	0	1.0	11.1	10.9	24.8	33.2	34.7	46.1	40.8	90
(指標4) 本学学生 の全世界的展開 (人)	447	751	1039	1111	1613	1656	1582	406	525	1740
うち北米	44	112	134	156	216	200	179	43	66	147
うち欧州	183	254	374	361	536	526	559	135	229	462
うち中ア/中央アジア	66	71	81	89	119	114	115	34	44	178
うちアフリカ	1	14	20	29	55	56	56	14	10	50
うち中近東	20	43	49	46	81	72	163	25	35	145
うち東南アジア	45	114	151	156	256	276	239	69	54	205
うち南アジア	1	21	24	20	32	56	64	6	6	113
うち東アジア	69	83	138	145	168	222	166	41	61	256
うち中南米	11	15	32	70	70	81	77	28	16	134
うちオセアニア	7	24	42	39	80	53	64	11	4	50

資料編